



東海道駿河以東：19 東六郷一大森一東大井一北品川

品川宿 川崎宿から2里半

本陣1、脇本陣2、問屋1、旅籠93。町並み 南北19町40間余。漁業と海運で栄えていた品川は慶長6年(1601)の宿駅制度発足と共に江戸から一地番目の宿駅に指定される。宿は目黒川を挟んで北本宿、南本宿とわかれていたが宿の発展にともなって北側に無許可の茶店が軒をつらねたので享保7年(1722)、“歩行新宿”として歩行人足負担を条件に許可した。旅人より遊客が多く、遊客は飯盛り女が目当て、寺も多く僧侶は飯盛り女の常連客。飯盛り女が増えたので幕府は検挙すると宿が寂れたので“その後黙認した”。飯盛旅籠で有名なのは“土蔵相模”。高杉晋作、伊藤博文らが遊女を横に倒幕の気炎上げた場所。本来の宿は“本宿”と呼んだ。宿泊地というより社交の場所。日本橋からの見送りは通常ここまでであった。寺も多く、御殿山と呼ばれた桜、紅葉の名所もあり、又品川浦での潮干狩でにぎわった。問屋場(三島の松辺り)には貫目改所が置かれた。



磐井神社(鈴ヶ森神社)

叩くと鈴の音がする石があるという。右にちなんで鈴ヶ森の地名がついたとか。磐井の井戸。心正しい人が呑めば清水。邪心のある人が呑めば塩水とか。祭神 応神天皇、仲哀天皇、神功皇后 大己貴命など古社。

梅屋敷

かつて、この地に住んでいた豪族が「蒲田」を名のっていた。自分の嫁取り記念に梅の木を植えたのが始まりで次第に本数も増え見事な梅林になったという。文政年間(1818-29)に和中散を売るかたわら梅林を手入れする“梅屋敷”という茶屋があった。幕末のころは志士が寒梅といって密議をした所。文政2年11月13日の“梅屋敷事件”はここで志士密議。



東海寺

寺は沢庵和尚生存中は“沢庵屋敷”と呼ばれていた。寛永15年(1638)將軍家光が寺を用意して品川に呼ぶ。沢庵は將軍秀忠のとき幕府にたてついた、紫衣事件で出羽国に配流されていたが、この処置に不満を持つものが多かったので家光が呼び寄せた。沢庵の墓(小堀遠州作)、賀茂真淵の墓。

紫衣事件

僧侶の位、最高の紫の袈裟の着用は朝廷が下賜していたが幕府に申請するように変更したので沢庵に抗議。川向かいの清光院 奥平家2代家昌ら八十九基の墓碑がある。

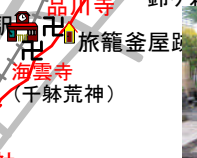
大森貝塚

明治10年アメリカ人エドワード・モースによって発見された貝塚。日本の考古学誕生の発端。

[弥次・喜多]

“おそろしや罪ある人のくびたまにつけたる名なれ鈴がもりとは”

[弥次・喜多] 品川辺りで海辺をばなどしな川といふやらん” 弥次の上の句に、きた八 下の句 されどさみづのあるにまかせて”



品川神社

伊豆で蜂起した頼朝は安房に逃げ洲崎明神に戦勝祈願、願いかなって洲崎明神を勧請に始まるという。太田道灌が京都の八坂神社の牛頭天王を祀る。境内に“富士塚”裏に板垣退助の墓。

寄木神社祭神

日本武尊、弟橘媛 日本武尊が走水から対岸、上総の途中船が難破。残骸が流れ着いたことが社名となる。

ほんせんじ

品川寺

江戸六地蔵の第一番。この寺の梵鐘は慶応3年(1867)パリ万博に出展されるがその後行方不明。ジュネーブのマリア博物館にあり、昭和5年返還される。鐘返る→金返るで縁起ものになる。

海晏寺

かつて紅葉の名所。鎌倉幕府北条時頼開基。蘭溪道隆開山の古刹。北条時頼、時宗、梶原景時他の供養塔。岩倉具視、松平春嶽、由利公正らの墓。(非公開?)

鈴ヶ森刑場跡

慶安4年(1651)八重洲口近くの木材町5丁目から移転。間口40間、奥行8間。明治3年廃止。丸橋忠弥、平井(白井)権八、八百屋お七・らを処刑。